

JCI-TC-161A 鉄筋コンクリート造壁部材の曲げ終局強度算定法に関する研究委員会 第11回議事録

(記録：松井)

1. 日時：2018年3月30日（金）15:00～17:00

2. 場所：JCI第5会議室

3. 出席者：[以下、すべて敬称略、_____は欠席者]

加藤（委員長）、秋山、岡本、河野、熊谷、新藤、津田、中村、萩尾、本多、松井、
松崎、渡邊

4. 提出資料：

No.11-1-1 報告書目次案	(加藤)
No.11-1-2 報告書目次案（修正版）	(松崎)
No.11-2 報告書 1.1 実務設計における耐力壁のモデル化	(河野)
No.11-3 報告書 4.2.2 有限要素法のモデル化	(中村)
No.11-4 報告書 4.3.4 地下駐車場・貯水貯留施設	(新藤)
No.11-5 報告書 9章提案法の土木構造物の適用検討	(中村)
No.11-6 委員会報告（JCI年次大会）	(加藤)
No.11-7-1 報告会会告（プログラム案）	(加藤)
No.11-7-2 報告会開催計画書	(加藤)
No.11-その他 報告書原稿ファイル	(各委員)

5. 議事内容：

① H30年度予算について【資料 No.11-7-2】

- ・ JCI全体の収支の悪化により、支出の削減が求められている。
- ・ 報告会の予算計画の見直し。20万ほど黒字にし、旅費等にあてる。
- ・ 資料作成において製本からCDに変更する。当初予定の30万円から20万ほどになる見込み。
- ・ 懇親会費7万円を削除。
- ・ 参加費は当初の計画どおりとし、変更はしない。

② 報告会会告・プログラム案について【資料 No.11-7】

- ・ 後援は土木学会、建築学会等に依頼する。
- ・ プログラム案の確認を行い、下記のとおり修正を行った。

進行（萩尾）

13:00～13:20 開会挨拶および全体概要（加藤）

13:20～13:35 実務における両側柱付き壁部材のモデル化（河野）

13:35～13:50 立体壁（熊谷）

13:50～14:05 袖壁付き柱（本多）

14:05～14:20 RC部材の損傷評価（渡邊）

14:20～14:50 土木分野における壁状部材（松崎）

14:50～15:00 <休憩>

15:00～15:50 無開口試験体の検証試験体とそのFEM解析、無開口試験体の曲げ強度に及ぼす

影響の検討と設計式の提案（津田）

15:50～16:30 有開口試験体とその FEM 解析，開口が強度特性に及ぼす各種影響の検討と設計法の提案（松井）

16:30～16:50 有開口耐震壁のモデル化（加藤）

16:50～17:00 総括および閉会挨拶（中村）

- ・ 4 月中旬に加藤委員長より事務局に会告原稿案を提出

③ 報告書目次案・内容について【資料 No.11-2～5 および原稿ファイル】

- ・ 各委員より報告書内容について説明がなされた。
- ・ 4.1 節では土木分野における壁部材の実験例、4.2 節では壁部材のモデル化手法、示方書における FEM 解析の利用法について述べる。
- ・ 4.3 節では壁式橋脚、ボックスカルバート、タンク、地下駐車場を対象としている。
- ・ 9 章では、壁式橋脚を対象に FEM、土木の設計式、津田先生の提案式の評価法の比較および適用性について考察する予定であったが、矩形断面の検討を津田先生がなされているので土木に対応しているとみなして 9 章は削除することとした。
- ・ 1.3 節は“RC 造壁部材の損傷評価”とし、既往の研究について紹介する。

④ JCI 年次大会委員会報告について【資料 No.11-6】

- ・ 目次と担当委員の確認がなされた。

1. はじめに(加藤)

2. RC 造壁部材のモデル化に関する現状と問題点（実務および研究の現状の紹介）…各 0.25～0.5 頁

2.1 実務設計における両側柱付き壁部材のモデル化（河野）

2.2 立体壁（熊谷）

2.3 袖壁付き柱（本多）

2.4 土木分野における面部材（松崎）

2.5 RC 部材の損傷制御体壁（渡邊）

3. モデル化に関する新しい提案の試み（研究委員会の成果の紹介）各 0.5～1 頁

3.1 無開口試験体の検証試験体とその FEM 解析（津田）

3.2 無開口試験体の曲げ強度に及ぼす影響の検討と設計式の提案（津田）

3.3 有開口試験体とその FEM 解析（松井）

3.4 開口が強度特性に及ぼす各種影響の検討と設計法の提案（松井）

4. おわりに（加藤）

- ・ 加藤委員長への提出期限を 4 月 16 日とする。

⑤ 今後の予定【資料 No.10-8】

- ・ 報告書の原稿の提出期限を 5 月 14 日とする。加藤委員長へ提出。
なお、8 月中旬頃を最終原稿締切とし、それまでは修正可能とする。
- ・ 9 月 28 日 報告会

以上